

第3回宮崎県総合計画審議会・専門部会合同会議
会 議 録

日時 平成31年1月16日(水)

13:15～14:53

場所 宮崎県庁講堂

午後 1 時 15 分開会

○事務局 定刻となりましたので、ただいまから第 3 回宮崎県総合計画審議会・専門部会合同会議を開催いたします。

本日は、審議会委員の皆様と各専門部会の部会長、副部会長を務めていただいております 3 名の専門委員が御出席されております。

まず、開会に当たりまして、知事が御挨拶を申し上げます。

○知事 皆さん、本日は大変御多用のところ、御出席をいただきましてありがとうございます。これまで、審議会・専門部会の運営、また県政全般に対しまして、さまざまな御理解と御協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

4 年ぶりに総合計画を改定するわけではありますが、この間、人口減少、高齢化がますます進んでいる状況であります。今この段階で、我々県として、またいろいろな団体と連携しながらどのような施策を打っていくか、非常に重要な計画になります。

これまで審議会、3 つの専門部会、また、県内各地での意見交換会、パブリックコメントも含めてさまざまな御意見を頂戴してまいりました。それを踏まえて取りまとめの段階ということでありまして、アクションプランに向けてもさまざまな御意見を頂戴したいと考えております。時間に限りはありますが、大変幅広いテーマを扱っておりまして、忌憚のない御意見を頂戴できればというふうに思います。

冒頭、皆様のこれまでの御尽力に対し御礼を申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○事務局 次に、本日の出席者の御紹介でございますが、時間の都合もありますので、お手元の出席者名簿で御紹介にかえさせていただきます。

なお、名簿中の備考欄に記載の皆様が都合により御欠席でございます。

本日は、河野知事、郡司副知事、鎌原副知事、日隈総合政策部長、松浦総合政策部次長、重黒木総合政策課長も同席させていただきます。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

総合計画審議会条例の規定により、審議会の議事の進行を会長にお願いいたします。

○会長 それでは、私のほうで進行させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、本日の会議録署名委員の指名ではありますが、本日御出席いただいております委員の中から、中川育江委員と新原委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしゅうございませ

ようか。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

昨年 11 月 13 日に開催しました会長・部会長会議で、各専門部会での状況を御報告いただいております。それぞれの部会で活発な議論がなされたと伺っております。後ほど今後のスケジュール等も出てまいります。本日は、長期ビジョンにつきまして、審議会・専門部会として最終的な整理を行っていきたいと考えております。委員・専門委員の皆様の御理解、御協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

そこで、本日は、改定の中心でありました長期戦略を中心に、委員の皆様やパブリックコメント等でいただきました御意見等を含めまして、再度、長期ビジョン全体について事務局から説明を受け、御意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、長期ビジョンに関しまして、事務局からの説明をお願いいたします。

○総合政策課長 それでは、私から説明をさせていただきます。

長期ビジョンにつきましては、昨年の 10 月末の第 2 回専門部会におきまして、イメージをお示しして御意見をいただいたところでございます。その後、委員の皆様方の御意見を踏まえまして、12 月に素案を取りまとめ、パブリックコメントを実施しております。あわせて、その際に委員の皆様にも素案をお送りして御意見を伺ったところでございます。お忙しい中、御意見をいただきまして誠にありがとうございました。

本日は、最終的な素案を取りまとめましたので、改めてその内容を説明いたします。

まず初めに、「資料 1」とインデックスの貼ってある資料を御覧ください。A 3 の横長になっております。

1 枚目が資料 1 - 1 として、現行の長期ビジョンと今回の素案の概念図を比較しております。これまでも御説明してまいりましたけれども、2030 年までの長期ビジョンとしての性格上、全体の構成や、基本目標の「未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦」、こういった長期ビジョンの中心になる部分につきましては維持してございまして、基本的には、概念図の上でございますが、「時代の潮流」ですとか「将来推計と予測」、こういったところについては最新の情勢を反映しつつ、長期戦略（長期的視点から重点的・優先的に取り組む戦略）を中心に必要な見直しを行ったところでございます。

次の資料 1 - 2 を御覧ください。長期戦略とその戦略目標について新旧の比較表となっております。左端と右端を見比べていただきますと、長期戦略につきましては、現行が戦

略1「人口問題戦略」から戦略8「危機管理強化戦略」まで、8つの戦略になっております。これを今回の改定案では5つの戦略に見直しております。このことに伴いまして、戦略目標についても25項目から19項目に整理しております。後ほど、別冊の本体資料のほうで中身を御説明いたしますけれども、概要だけ申し上げますと、人口減少問題の対応と人財育成は不可分なものであることから、現行の戦略1と2を統合して「人口問題対応戦略」としてしております。また、成長産業の育成と地域経済循環も同様の考えでございまして、現行の戦略3と4を「産業成長・経済活性化戦略」としたところでございます。また、スポーツや文化などのさまざまな本県の魅力を観光振興や地域活性化につなげていく観点から、現在の戦略5と6を「観光・スポーツ・文化振興戦略」としたところでございます。あわせて、超高齢社会、少子高齢化社会にあっても人々が安心して暮らせる地域づくりを目指す「生涯健康・活躍社会戦略」を設けるとともに、最後は、不断の取組が必要な「危機管理強化戦略」については引き続き掲げたところでございます。

次に、資料2でございまして。こちらは中身の説明は時間の都合上割愛いたしますけれども、これまで委員の皆様や専門委員の皆様、それから、パブリックコメントなどで寄せられた御意見とその対応状況をまとめた表でございまして。一部対応が難しいものもございましたけれども、できるだけ長期ビジョンの中に取り込んだところでございます。また、具体的な御提案もいただきましたので、改めてアクションプランの検討の中で参考にさせていただきたいと考えております。

それでは、素案の中身について御説明させていただきます。

別冊の「長期ビジョン素案」をめぐりながら説明させていただきたいと思っております。

表紙をめくっていただきまして、まず、目次がございまして。第1章が「時代の潮流と将来予測」、第2章が「基本目標と目指す将来像」、第3章が「長期戦略」、第4章が「分野別施策」という構成になっております。

1ページめくっていただきまして、1ページ目でございます。中身に入ります前に、2の計画の役割について少し御説明させていただきます。

第1回目の審議会で少し御説明したところでございますけれども、次の2ページの一番上の段落に記載がございまして、今回は、総合計画とは別に、「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定して取組を進めております。この「まち・ひと・しごと総合戦略」につきましては、人口減少問題の克服に向けた基本的な考え方を提示するものでありますことから、これまでも総合計画と一体となって推進してきて、評価も一緒にやってきております。今

回の見直しに合わせまして、この総合計画を「まち・ひと・しごと総合戦略」としても位置づけるということで考えております。

次の5ページからが中身に入っております。

5ページが「時代の潮流」となっております。内容等は7ページからです。

総合計画の展開に当たりまして、時代をどう捉えているのかを記述している部分でございます。少子高齢や人口減少、グローバル化、科学技術の進展、大規模災害対策など、基本的にはこれまでの計画と大きな変更はございませんけれども、例えば「人生100年時代」の到来ですとか科学技術の進展、こういったことについては、そういった内容を踏まえた見直しを行っております。

それから、項目として新しく追加しましたのが15ページでございます。15ページを御覧ください。「持続可能な社会を目指して—SDGsの実現—」という項目を新たに1項目起こしております。これまでの審議会や専門部会でもこれについてはさまざまな御意見をいただいております、SDGsの理念や要素については、これまでもそうですが、本県の施策の方向性と合致するものでございますので、改めてSDGsも意識しながら県の施策を進めることとしたところでございます。

16ページをお開きください。16ページが将来推計と予測でございます。こちらのほうもこれまで御説明した内容になりますが、改めて簡単に触れさせていただきます。

中ほどに四角が2つございますが、2030年の人口や経済活動等について、ケース1とケース2に分けて推計しております。ケース1については、人口動態、経済活動ともに現状推移の場合でございます。ケース2については、人口動態について厳しい目標という御意見もたくさんいただきましたが、2030年代、すなわち2040年までには合計特殊出生率が2.07に改善する。それから、全体の社会減も解消すると仮定しております。また、就業率については、60歳代の就業率が70%になるなど、非就業者の経済活動への参加が進み、経済活動の生産性は10%向上すると置いております。

以上の条件で推計したところ、16ページの下の方に記載しておりますとおり、2030年の人口は、ケース1で97万7,000人、ケース2で99万5,000人となりまして、就業人口は、ケース1が約42万人、ケース2が約47万人となっております。また、1人当たりの県民所得は、ケース1では減少しますが、ケース2では生産性の向上等により増加する推計となります。こういったことから、人口が減少していく中でケース2に近づけられるように、後ほど御説明いたします長期戦略の目標設定等を行っております。

次の 18 ページからが、今申し上げました人口動態等の各圏域ごとの推計になっております。説明は割愛いたしますけれども、いずれの圏域も基本的な傾向は同じでございます。

26 ページから 28 ページは、より長期の人口推計や詳細な人口動態の指標を追加しております。

29 ページからは、宮崎県の特性を記載しております。本県の強みとなる部分を踏まえて整理したものでございまして、地理的特性や自然環境、産業の特性などで、東九州自動車道の整備が進んだことや、ユネスコエコパークの登録などを踏まえての記述、産業関係のデータを記載しております。

39 ページからが、基本目標と目指す将来像でございます。中身のほうは 41 ページからとなります。

41 ページについては、先ほど申しましたように、中の説明書きや記述は、最新の状況を踏まえた修正を行っておりますけれども、長期ビジョンという性格上、基本目標である「未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦」については変えていないところでございます。

42 ページから 43 ページ、44 ページまでに書いております「人」、「くらし」、「産業」、それぞれの将来像についてもおおむね従前のおりとしております。

45 ページから 46 ページについては、県づくりの基本姿勢について記載しております。今の時代認識に基づいて表現を変えた部分はございますけれども、経済拡大を前提とした社会・価値観からの転換ですとか、住民主体の地域経営、人財育成など、基本的な考え方には変化はないというところでございます。

47 ページからが第 3 章の長期戦略でございます。今回の見直しの中心でございます。委員の皆様からの御意見を踏まえて整理した内容となっております。

49 ページからが中身になりますので御覧ください。

49 ページが、長期戦略の基本的考え方を記載しております。長期戦略につきましては、基本目標であります新しい「ゆたかさ」を築き、目指す将来像を実現するために、重点的・集中的に取り組む戦略であると位置づけております。

その上で、これまでのフードビジネス等の成果に加え、少子高齢化の進行、ゴールドenspports イヤーズなどのさまざまな社会経済の大きな影響、人々の意識の変化、こういったものにつながるような出来事を踏まえて、総合的な見直しを行ったとしております。

50 ページを御覧ください。図を示しておりますけれども、長期戦略の展開に当たって特に重視すべき視点としまして、人口問題、人生 100 年時代、グローバル化、科学技術・環

境、危機対応、こういった5つの視点を掲げまして、それぞれを総合的に勘案しながら、戦略1の「人口問題対応戦略」から戦略5の「危機管理強化戦略」まで、5つの戦略を推進して基本目標の実現を図るという内容にしております。

それぞれの戦略につきましては、55ページから記載がございますので、そちらのほうを御覧いただけますでしょうか。

まず、55ページ、戦略1「人口問題対応戦略」でございます。

こちらのほうは、人口減少、少子高齢化を背景として、戦略のねらいとしましては、社会減、自然減対策による人口減少の抑制、地域や産業を支える人財の育成、人口減少が進む中であっても活力が維持される地域づくりというふうにしております。

戦略の内容につきましては、結婚・出産、子育て等への支援、若者にとって魅力ある産業・雇用の創出、戦略的な移住・定住の促進、次の56ページですが、中山間地域を中心とする地域全体の暮らしを守る仕組みづくり、さらには、学校、家庭等が一体となった教育の推進、高等教育の充実など、人財の育成を図るとしております。

中ほどに戦略目標を掲げておりますが、そういった取組を実現するために、戦略目標としまして、総人口100万人程度、合計特殊出生率1.9程度、高卒者・大卒者の県内就職割合を高めるという目標を掲げております。

57ページが、戦略2「産業成長・経済活性化戦略」でございます。

背景に記載しておりますように、グローバル化やICTなどの技術革新の進展、産業の担い手不足、循環型社会への転換など、さまざまな状況変化、多くの課題がございます。

このため、戦略のねらいとしましては、本県の特長や地域資源を生かした産業づくり、基盤となる交通・物流ネットワークの充実などによる地域経済の活性化、中核企業の育成や地域経済の循環促進などによる持続可能な産業構造の構築としております。

戦略内容としましては、フードビジネスをはじめとする成長産業の育成加速化、次の58ページ、農林水産業の成長産業化、輸出の促進、また、新技術やイノベーション創出、再生可能エネルギーの導入促進、さらには高速道路や港湾などの交通ネットワークのさらなる整備、こういったことなどを進めることとしております。

戦略の目標でございますが、売上高が30億円以上となる企業を10社増やすことや、1人当たりの農水産業や食料品の生産額の増加としております。

59ページを御覧ください。戦略3「観光・スポーツ・文化振興戦略」でございます。

ゴールドensポーツイヤーズなどによるインバウンドの増加が期待されておまして、

国文祭・芸文祭など本県の魅力を発信する絶好の機会を迎える中、魅力の磨き上げや戦略的な観光推進、こういったものが求められております。また、スポーツランドみやぎきや世界農業遺産などを生かしたスポーツ・文化を通じた交流の拡大が必要とされております。

このため、戦略のねらいとしましては、世界から選ばれる「観光みやぎき」の実現、スポーツや文化を通じた交流人口や関係人口の拡大を図るとしております。

この実現におきまして、戦略の内容にごさいますように、魅力ある環境づくりやインバウンドを含む誘客の強化、スポーツランドの魅力向上、アスリートの育成や生涯スポーツの振興、次の 60 ページになりますが、豊かな自然や伝統文化などを生かした世界ブランドづくり、国文祭・芸文祭を契機とした文化力の向上などを図ることとしております。

戦略の目標としましては、観光入込客数や観光消費額、文化に親しむ県民の割合の向上などを掲げております。

61 ページを御覧ください。戦略 4 「生涯健康・活躍社会戦略」でごさいます。

背景としましては、人生 100 年時代の到来、医療・福祉ニーズの拡大と担い手不足、障がい者の支援ニーズの多様化、さらには社会的孤立や子どもの貧困の問題、人権問題の多様化、複雑化などを掲げております。

このため、戦略のねらいとしましては、医療や福祉が充実し、将来も安心して暮らしていける社会、多様な個性が尊重され、誰もが活躍できる社会の構築を目指すとしております。

戦略の内容としましては、福祉・医療サービスの充実等による健康寿命の延伸、地域包括ケアシステムの構築、また、市町村との連携により困難を抱える人を支える社会づくり、さらには、女性や高齢者、外国人など一人ひとりが活躍できる社会づくり、次の 62 ページになりますが、多様性を受け入れて誰もが自分らしく生活できる社会づくりを進めるものでございます。

戦略の目標としましては、医療満足度の向上、健康寿命日本一などを掲げております。

63 ページを御覧ください。戦略 5 「危機管理強化戦略」でごさいます。

台風や火山噴火などによる災害はもちろんのこと、南海トラフ地震の発生等が懸念されておきまして、災害対応の際のかなめとなるインフラの老朽化も問題となっております。また、引き続き、感染症対策や家畜防疫体制の強化も重要でございます。このため、戦略のねらいとしましては、危機事象からの復興を見据えた自助・共助・公助が連携した危機事象に強い環境づくりを目指すものでございまして、戦略内容にごさいますように、ソフ

ト・ハード両面からの防災・減災対策、災害時の支援体制の強化、安全・安心のベースとなるインフラ機能の強化、さらには、次の64ページですが、感染症対策や家畜防疫体制の強化、こういったものを進めるという内容にしております。

戦略目標につきましては、県内の防災士の数を1万人にする、緊急輸送道路の防災対策進捗率を増やしていくという目標にしております。

長期戦略の内容は以上でございますが、次の65ページから66ページに、ただいま説明しました戦略目標の解説を掲げております。表の右に現況値を、表の左に戦略目標の数値を置いております。総人口100万人程度とか、合計特殊出生率の向上とか、非常に難しい、高い目標も掲げておりますけれども、これまでの取組をベースに、さらに頑張っていきながら目標達成に向けて努力してまいりたいと考えております。実現に向けてはどのように取り組んでいくのか、特に今後4年間どうするのか、これにつきましては、今後進めていきますアクションプランの検討の中で関係部局とも議論しながら、具体的対策として練り上げていきたいと考えております。

67ページ以降は、分野別施策になります。

69ページをお開きいただけますでしょうか。こちらのほうは細かい説明は省略しますが、69ページに、人づくり、くらしづくり、産業づくりごとに、県として進めていく施策全体を体系的にお示ししております。現時点での状況を踏まえてそれぞれ必要な見直しを行っているところでございます。内容につきましては、施策全体を網羅している関係上、非常に細かい部分に入りますので、この場での説明は割愛させていただきます。

長期ビジョンの素案についての説明は以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。ただいま事務局から説明をいただきました。

続きまして、各専門部会の部会長のお立場から、これまでの専門部会での状況を踏まえてコメント、あるいは追加等がありましたら、御発言をお願いしたいと思います。それぞれ2～3分ずつをお使いいただきましてコメントいただければと思っております。

それでは、まず、人づくり専門部会の部会長、よろしく申し上げます。

○部会長 人づくり部会は、5つの戦略の中でも、戦略1「人口問題対応戦略」あるいは戦略4「生涯健康・活躍社会戦略」と関係が深いということで、この部分を中心に意見交換を行いました。いくつか意見が出されたので御紹介させていただきます。

一度宮崎を離れてもよいが、その後戻ってこないことが問題だと。戻ってきて地域課題の解決に貢献してもらえよう、戻ってきてもらえよう魅力をも18歳までにいかに伝え

ておけるかが重要だという意見がございました。また、将来の経済情勢を見据えて、効率化を進めていける高度な経営力を持った人財の育成も必要である。あるいは、宮崎からもグローバルに活躍できるという視点を持って子どもの教育に当たることも重要だ。さらには、子どもに宮崎のよさを伝える地域教育を施せる人財の育成も必要である。また、子育て世代や子育ての困難な世帯に優しい県、女性が働きやすく子育てしやすい県という打ち出しができるとうい。そういった意見がございました。また、子どもを育てやすい環境整備としては、産婦人科や小児科の充実が不可欠である。あるいは、UIJターンは目的ごとにアプローチが異なるので、それを踏まえて施策をすべきである。それから、中山間地域には、地域づくり、人財育成のコーディネートができるようなプロ人財が必要である。さらには、文化やスポーツによる人づくりの視点も重要である。そういった意見が出されました。

こうした御意見は、長期戦略あるいは分野別施策の中にも大きな方向性として取り込まれていると考えておりますけれども、今後、アクションプランの議論の中で具体的な取組等について議論を進めていただければありがたいというふうに思っております。

以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、くらしづくり専門部会から、部会長のかわりに副部会長、お願いいたします。

○副部会長 副部会長の私からお伝えいたします。

くらしづくり部会では、5本の長期戦略の中で、戦略1「人口問題対応」、戦略4「生涯健康・活躍社会」、戦略5「危機管理強化対応」、こういうものが中心に議論されました。

その中で主な意見をポイントだけ申し上げますと、医療・介護に関係する事象として、医師や看護人財の確保が待ったなしの状況ではないか。それと、介護人財についても同様であり、外国人や先端技術を活用していくことも重要ではないか。地域包括支援センターを支えるケアマネジャーなどの人財育成も非常に重要であろうという御意見がありました。

続いて、安全・安心にかかわるものとしては、免許返納後の高齢者や要介護者の移動の支援、地域交通の確保、これが重要課題となっていること。それと、遊休施設を活用した新たなコミュニティやサービスの提供も考えていく必要がある。それと、自治会の加入率

の低下に対してきちんと対応していくべきであろう。さらに、外国人が増えており、今後の増加も見込まれていることから、外国人と共生できる環境づくりを進めていくべきであろう。加えて、健康経営への取組が重要となってきたが、県内の中小企業では問題意識が薄い。もっと切実感を持って取り組むべきであろうという御意見がありました。

危機管理、災害事象に関するものとしては、住民の防災意識が総じて低く、これを向上させることが重要であるので、さらなる啓発活動をやっていく必要がある。それと、L1津波等、比較的発生頻度の高い自然災害に対しては、きちんとハード整備を進めていくことが重要です。それと、今後は、避難に支援が必要な人々への対応などに向けて、防災士あるいは消防団との連携を密にしていくことが重要であろうといった御意見がありました。

こうした御意見は、長期戦略の分野別施策の中にも大きな方向性として取り込まれていると考えますが、今後、アクションプランの議論の中で具体的な取組等について議論を進めていければと考えております。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、産業づくり専門部会のほうから部会長、お願いします。

○部会長 御報告申し上げます。

5本の長期戦略の中で、産業づくりに関連の深い項目は、戦略1「人口問題対応」、戦略2「産業成長・経済活性化」、戦略3「観光・スポーツ・文化振興」になります。専門部会では、この部分を中心に意見交換がされたところであります。

まず、賃金や労働環境の面で安心というものがなければ若者は定着しないだろうと。本県の所得向上は産業界に課せられた課題でもある。これまで、食の安全・安心のインフラ整備を進めてきているわけですが、フードビジネスの先進地であることをもっと前面に出してもよいのではないかと。また、フードビジネスもよいが、本業でローカルで稼いでいける仕組みをつくることも重要ではないかと。また、時代の流れに県内企業が対応して変化できるようサポートが必要である。企業成長を促進するに当たって、特定の産業分野に重点を置きながらも、いかに他の産業に波及し循環性が高いかを意識する必要がある。農業にこれから必要なのは「儲かる農業」である。今後、従事者が減っても従事者の質が高まれば産業として維持することは可能である。また、Society5.0などイノベーションの進展がこれから見込まれるわけですが、今後、先端技術の活用によって、省力化や

効率化、生産性の向上への対応は不可欠である。また、観光面や1次製品の輸送、災害時の緊急輸送対応など、交通インフラの充実をこれまで以上に真剣に考える必要がある。そして、人手不足への対応は待ったなしのところに来ている。外国人に頼らないと維持できない産業もある中で、受け入れ環境の整備は重要であるという意見がありました。

こうした意見は、長期戦略や分野別施策の中でも大きな方向性として取り込まれていると考えるところでありますけれども、今後、アクションプランの議論の中で具体的な取組等について議論を進めていければと考えております。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。長期ビジョンにつきまして、事務局からの説明と各部会長さんからのコメントをいただきました。これから審議会委員の皆様一言ずつ御発言をお願いしたいと思っております。長期ビジョンの中で重要だとお感じになっている点や、あるいは力を入れるべきであろうという感想などを含めて、どのような観点からでも構いませんので、御発言をいただきたいと思っております。

私のほうで感じておりますことを最初に申し上げたいと思っておりますが、この審議会では、昨年の7月以降、知事からの諮問を受けて作業を行っております。人口推計や長期ビジョンの戦略を中心に置きながら議論を進めてまいりました。

人口減少問題は戦略の1番目ではありますが、これについての対応は、教育や産業、地域振興などあらゆる分野にわたって貫いている一つの大きな柱であろうと感じております。今後、人口減少も予想されておりますが、そのような中であっても、宮崎県のすぐれた特性をいかに見つけ出し、人づくり、くらしづくり、産業づくりにそれをつないでいくか。そして、ゆたかな宮崎県を築いていくことが私ども一人ひとりに問われていると感じております。皆様の御協力のもと、5つの長期戦略に取りまとめられたのではないかと感じております。これまで議論をいただきました各専門部会の方、それから、委員の皆様心から御礼を申し上げたいと思っております。

また、情報発信については、本県は必ずしも得意ではないのではないかと御意見も多々見られております。しかしながら、宮崎県には、世界に通じる、あるいは日本全国に打って出る価値のあるアイテムもたくさんあるかと思っておりますので、情報発信ということについても、これまでも検討を続けられておりますが、さらなる付加的な活動が必要ではないかと感じております。

「企業は人なり」という言葉がございますが、企業のみならず、地域全体を支えていた

だいているのは県民の皆様であります。今後発展する可能性のあるAIなどの技術進展を活用しながら、最終的にどのような宮崎県、そしてそのゆたかさにつなげていくかということも、宮崎県民の皆さんの判断によるものであらうと思います。そのために必要な情報の提供でありますとか、実際の成果の説明とか、そういった情報発信をしっかりとしていくべきだらうと思っております。

また、先ほどから高等教育機関に関する御意見もたくさんいただいております。私もその一員として、学校、地域、産業界などとも幅広い連携をとりながら、今後も本県の将来を牽引してくれるすぐれた人財の育成に取り組んでいかなければならないと感じております。

このようなことを今回の全体の作業を通じて私個人として感じたところでございますので、一応まとめさせていただきました。

そういったところから、今日御出席の委員の皆様にご意見をいただきたいと思いますが、委員のほうからよろしいでしょうか。

○委員 我々の一番の問題の共通点は人口減だと思います。その人口減を食いとめ、緩やかにということになるのでしょうかけれども、日本という国の中で、移住をお願いするとかよく言われますが、A地点からB地点に来てみても全体的な人口は何も変わらない。むしろ減っていつているわけです。宮崎県の人口が安定すればいいんじゃないかという論理だけではちょっときついのではないかと思います。ですから、宮崎県の総合計画はどうなのということもありますけれども、全体的な観点、もうちょっと違う観点も必要ではないかと思ひます。

宮崎だけのことを考えていきますと、人を集める力、そして定着させる力、最後は教育する力、この教育というところが一番のミソになると思ひます。宮崎の魅力や宮崎のあり方、宮崎が食べる方法など、いろいろな形を教育という言葉の中に包含していただければと思ひますが、教育する力というところのマンパワー、宮崎の個人個人のマンパワーが必要だと思ひています。古いノートを持ち出して、ああではない、こうではないということ通用しない時代が来ているし、来ます。AIにしても、IoTにしても、もしくは情報力にしてもいろいろな事柄が言われておりますが、宮崎に来るときは全てが二番煎じではないかと思ひます。二番煎じになってもいいからしっかりと落ちついた政策をとらうふうに思ひます。

先ほどマンパワーと申し上げましたが、小学生、中学生、高校生、大学生に至るまで、

もしくは社会に出てからの勉強というものは、3年間ぐらいのスケジュールで3回ぐらい繰り返すことがいいのかなと私は思っておりまして、社員教育も3年間で1クールにして3クールとなりますと9年たちます。9年たったときに、一番最初にやったものが情報として無駄になるものと残るものとの仕分けをしながら次のセクションに行くということを考えなければならない。私のところの話をしてみますと、一番端的なのは、1年半ぐらい前には、ある会社のA氏のやり方はすばらしいということを教育していたんですが、ここに来てうちの社員から非難されています。このように時代が変化するというところもあります。しかし、言い方を変えると、A氏のやり方は、資本主義社会としても、また民主主義社会としても十分通用する。ただ、わがままが過ぎたというだけで、資本主義社会と民主主義社会においては、自由な経済の中で間違ふことをやればやれるという一つの大きな見本、これがマンパワーです。このマンパワーを宮崎の中でどう生かすか、これは一人ひとりがモチベーションを上げることだと思っております、最後に教育の力ということにさせてもらったんですが、後で皆さん方でもんでください。

それから、あと一つは、人づくりのところに「多様な主体が参加し、一人ひとりが尊重される社会」とか、産業づくりでも「多様な連携により新たな産業が展開される社会」と書いてあります。この「多様」という言葉が私はわかりません。「多様な主体」というのは「多様」が主体になるんですか。何が言いたいのがわからないんです。そこをお教えいただければと思います。

○会長 ありがとうございます。事務局いかがですか。どういう意図があって記されているかということでしょうか。

○総合政策課長 少しわかりにくいところがあったかもしれません。例えば産業で「多様な主体」と言ったときには、行政機関や民間企業、あるいはいろいろな団体ですとか、本当は「さまざまな」という言い方が正しいのかもしれませんが、そういった意味で「多様」というふうに使っているところもございます。また、人づくりのところで、どんな方でも働きやすい社会ということであれば、高齢者、女性、障がい者、そういった個々人の多様な方々がいろいろなところで活躍できる社会、そういう言い方をしているところもございます、それぞれの戦略の中身のところで言葉の定義の仕方が若干違うところがあってわかりにくいところがあるかもしれませんが、そういう意味で使っているところがございます。

○会長 どちらかと言えば「さまざまな」という感じのほうがニュアンス的には前に出て

いるという理解でよろしいですね。

また、今、委員からは、教育という意味づけの幅を新しい価値観として見るべきではないか、そういう考え方をすべきではないかというコメントをいただいたように思います。どうもありがとうございました。

それでは、専門委員からも一言。先ほどのコメントに付け加えることがありましたらお願いしたいと思います。

○専門委員 この長期ビジョンづくりに参画させていただいた初めのころに言ったことと同じことを繰り返して言うことになりましたが、今回、戦略1から5ということで、今まであるものをより強化していくと。各戦略の下にさまざまな事業がぶら下がっていくことになると思います。事業は、最適な方向で最もよろしいアウトプットを目指してやっていく。それは縦でやっていくわけですが、それを横に横断してつなげていくようなことを実際にやらないと、せっかくこういうプランをつくっても、それぞれが最適なことはやったけれども、結果としての総合的なアウトプットがどうも全体としてうまくまとまっていないということになると、非常にもったいない話になってしまうので、そこが一番大切なところではないか。組織というのは必ずその組織ごとに最適化を目指して頑張っていくけれども、全体を取りまとめるもう一つ大きな枠で見るときに、横串で見ないと全体としてのパフォーマンスはボトムアップしていかないというのが一般的な考え方なので、今回は非常によい内容ができたと思いますが、実際にやっていく上では、その部分を意識してやっていくことが宮崎にとって非常に重要ではないかと思えます。

○会長 ありがとうございます。今の横串という意味では、総合政策部の方は大変努力をしておられます。何か一言ございますか、横串を刺して前に進もうという御意見について。

○総合政策部長 ありがとうございます。確かに総合計画をつくりますと、専門委員がおっしゃったように、国でも各省庁があるように、県のほうでも各部縦で、自分の部局で事業は最適なものをということやっていきますが、本来、県をどうやっていくかということでこういう戦略を立てて目標値を設定して取り組んでいきますが、そこを我々も確認しながら進めていく必要があると改めて思いました。今回の長期戦略は、県のほうで取りまとめの後、各部で議論して進めてまいりますので、その点を留意しながら進めてまいりたいと考えております。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、委員、お願いします。

○委員 先ほど委員や専門委員の言葉の中に「モチベーション」や「パフォーマンス」という言葉が出てきて、私も常々それを考えています。この「ゆたかさへの挑戦」の「ゆたかさ」というものは、目に見える数字だけではない、県民の心のゆたかさという御説明を第1回審議会でお伺いしたような気がします。

先日、子どもの参観日に行ってきましたら、キャリア教育の真っ最中でした。飲食店の方のお話を子どもたちが聞くという場を設けていたようです。そのときに、「最後に質問はありますか」と講師の方が言われたら、しばらく黙っていた後にある子どもさんが手を挙げて、「最高月収はいくらですか」というふうに経営者の方に聞かれていました。大人は笑っていたんですが、講師の方はどういうふうに答えていいか、具体的な数字を言うわけにもいかないので、大体の御説明をされていましたが、子どもからしても稼げるか稼げないかというのは意外に重要なのかなと思ったり、現金なことを聞くなあとも思いました。儲かる農業というのも先ほど専門委員のほうから御説明がありましたが、ゆたかになる上ではお金のことも切り離して考えられないことなのかな。宮崎に残ってくれ、帰ってきてくれと言うからには、ここでどう稼いで生きていくかということ子どもに示していけないといけないと改めて思いました。

そして、モチベーションなんですけど、周りの友人や知人の結婚しない人に、どうして結婚しないのと聞いたら、周りの家庭を見て幸せそうな人がいないと言われます。私は子どもに英語を教える仕事をしています。英語が話せるようになることが目的なんですけど、英語は楽しいよ、話せると自信がつくよ、自分の武器になるよということも伝えています。モチベーションというのはすごく大事なことで、結婚のモチベーションもそうだし、子どもを生き育てることにモチベーションもそうなので、ここにお集まりの皆さんには家庭は楽しいものだということ周りに伝えていただきたいし、勉強することもやっていることも全部楽しみを追求してやっているという、モチベーションを上げていく方向性で物を語ることに気をつけていきたいなというふうに思います。

○会長 ありがとうございました。

それでは、専門委員も一言何かありましたら。

○専門委員 3点ほど申し上げたいと思います。

1点目は、15ページのSDGsのところですか。部会での議論等々で、このSDGsの話はもう少し強めに出していただけないかというお話を事務局のほうにさせていただきまして、それを踏まえて入れていただいて、本当にありがとうございます。経済・社会・環境

を統合的に解決するという視点が求められていますので、県政やほかの施策等にもこういった視点を入れていただきたいということでした。感謝申し上げます。

2番目は、全体を通じて、これまでの総合計画の中で使われていた言葉で使われなくなったのは「県土」という言葉です。県土整備部という部局はありますが、「県土」という言葉が出てこないんです。これは危機管理のほうには確かにあるのですが、災害も多くなっていて、道路をどう維持・保全するのか。宮崎県の場合は山もあって長い海岸線がある。「県土」という視点で県政を考えていく、あり方を考えていく。どう維持して、そして災害のときにどう対応していくかという「県土」という視点、これは今回入りませんでした。そういった視点で考えていくことが大切なのではないかと。そして、県土をしっかり維持していくために新しい道路をつくっていく。そのつくった道路をどういうふうに生かしていったらどう連携していくか。そういった「県土」という視点も県政においては重要ではないかということです。山間部であれば山林をどう維持するか。林業が盛んになればだめでしょうし、それは実は人の話ということで、そういう視点を入れたらよいのではないかと思いました。

3番目は、インバウンドのお話です。私はある市のいろいろな委員会に出る中で、その市では、インバウンドでお客さんが来たときに、100人が御飯を食べられるところが限られていて、肉とか焼酎と言ってもそれを味わえる場所が限られていることが課題であると思いました。所得を上げていく中で、人口が減少する中でいかに稼ぐかというのがインバウンドの対応で非常に重要かと思います。全県的な観点から、どこで受け入れて、どこで御飯を食べたり消費をしていくのか、そういったトータル・マーケティング的な調査と具体的な戦略が求められている。全県的な観点でインバウンドをどういうふうに受け入れ、お金を落としてもらえるか、それを地域活性化につなげるか、そういった視点があるのではないかと思いました。

○会長 どうもありがとうございました。まさに持続可能性というテーマも必要だという御指摘です。

委員、よろしく申し上げます。

○委員 私は、産学官連携推進という立場でこの審議会と産業づくり部会のほうに参加させていただきました。さまざまな立場の皆様からの御意見を伺って、まだまだいろいろな組織間の溝を埋めることが必要だなと感じたのが現在の感想です。

SDGsの実現というのがこの中に盛り込まれたことに関して、私も非常にありがたい

など思っております。これについては、書いてあるように、世界を変えるための17の目標です。今、非常に大きな変化があるということを前提に今回の総合計画に関してもさまざまな意見がありましたが、この変化を危機ではなく機会として捉えることが、これから5年後、10年後に向けての宮崎県の姿勢なのだなと感じております。

宮崎大学としても、人財や知恵、そして技術やネットワークといったもののポンプ役として非常に期待されているという強い印象を、今回の皆様のコメントも含めて感じましたので、私のところでできることはごくわずかですが、さまざまな機関の対話を推奨するようなことをしていきたいと思っております。

ちょうど本日午前中に、内閣府の推奨で始められたS I P事業という、日本の省庁を横断型で変えていこうという事業の一端に宮崎大学が採択されましたので、その実際の圃場として農家を回ってまいりました。掲げていくのは、スマートフードチェーンという、農業をデータを使って世界観ごと変えてしまおうというようなものですが、実際にやることは、普通に行われている農業生産地のデータを丁寧に拾って、環境にも対応した収穫ができるようサポートするようなシステムをつくって、生産のデータを流通上のデータにつなげて、輸出や国内生産に向けての力をつけていこうという壮大なものに向けてやることは、毎日毎日、生産者のところからデータをいただいて大学でちまちま分析するところからです。大きな目標に向けて小さなところからできることがたくさんあるんだなと感じているところです。

来年から大きな宮崎の発展、そして2020年のオリンピックに向けて大きな動きもあると思いますが、大学として期待されているところを少しでもサポートできたらと感じたところです。

○会長 ありがとうございます。

委員、お願いいたします。

○委員 教育ということでは、これまで人財育成の問題が個別に取り上げられていたのが、人口減少と不可分だということで、人口問題対応戦略の中に取り込まれた形になっています。となると、これまでよりも大きな視点を持って教育に当たっていく。つまり人口減少にかかわるという教育をしていかなければいけない。その戦略の目標として、県内就職の割合を高卒者で65%以上にする、大卒者で50%にするという目標が掲げられましたので、教育としては大きくはここを目指して取り組んでいくことになろうかと思っております。キャリア教育を行う、それから、地域社会とのかかわりをこれまでよりも濃くしていって、地域

あるいは県内にどんな企業があるのかという具体的なことをより進めていくことになるのかなと思っています。

申し上げたいことは、先ほど横串の話がありましたが、私の立場からすると縦串も刺していただきたい。市町村は市町村で小中学校を県の方針に沿ってやっていきます。それを今度は県立の高校にどうつなぐか、大学にどうつなぐか、その縦串。おでんはぶかぶか浮かんでいるけれども、そこに串を刺すといいんじゃないかという話を私はよくするんですが、高卒者 65%、大卒者 50%にするためにはどんな取り組みがどのように功を奏するかというフィードバック、小中学校、高校、大学の取組が縦串で刺さればどんなふうに功を奏するのか、そういうシステムが構築されるとやりやすいのかなという思いを持っています。私たちは具体的に教育という場で子どもたちを指導していきますので、具体的なレベルでの話も進んでいくとありがたいと思っています。

○会長 ありがとうございます。今まさに大・高・中・小の連携性を縦串という言葉であらわされましたが、重要なことだと思います。

では、委員、お願いします。

○委員 先ほどから各委員の方がおっしゃったSDGsに関して、今回、強く入れてほしいということを何度も申し上げてきました。「SDGsアクションプラン2019」というものがあって、1つ目として、SDGsと連動する「Society5.0」の推進、2つ目として、SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり、3つ目として、SDGsの担い手として、次世代・女性のエンパワーメントという三本柱で2019年は進んでいくと書かれています。

SDGsがなぜ生まれたかというもともとのゆえんは、持続不可能だからというものがあって、ここ20~30年頑張れば持続可能な社会になっていくはずだということで、日本だけではなく、2015年に全世界が全会一致で認めました。

これをやっていく中で大事なこととして、課題は外ではなくて自分の中にあるのだと。誰もがリーダーになって、セルフリーダーシップで取り組まなければいけない。自分は課題の外ではない。自分が課題の中にいる。モチベーションということもおっしゃいましたが、そこだと思います。そのためには、アンテナを高く張っていち早く兆しを読むというところが大事なのかなと感じています。「No one will be left behind」、誰一人取り残さない社会づくり、これは宮崎でも同じことが言えるのではないかということで、今回入れてくださって非常にありがたかったと思います。

健康経営に関しても、高齢者への取組はすごく大事だけれども、今の働き盛り、今の現役世代にどう取り組むかで10年後、20年後の状況が変わってくるということです。これに関しても先を見ている自治体は取り組んでいらっしゃいます。そこが宮崎県の魅力である、宮崎県で働いても大丈夫だという取組に向かう大事な視点ではないかと思います。

もう一つは、私もキャリア教育に取り組んでいまして、企業の中で次世代支援の部分なんです。私たち大人が笑顔で、将来は悲劇だけではないのだと、つくれるのは私たちの未来で、つくりたい未来を明るくデザインしていくのが我々大人。人間は原理原則、未来に対して責任があると思います。そこに対して我々大人が子どもたちに、大変だよではなくて、こんなわくわくする未来があるんだよ、こんなわくわくする宮崎県があるんだよということを指し示すことが大事なのかなと感じるところです。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、委員からお願いします。

○委員 先ほど、委員がおっしゃった人口減少問題にどう対応していくかということが一番の課題だろうと思っています。私自身は、地域包括ケアシステムや子どもの貧困問題をどうしていくかということを常に考えてやっています。地域包括ケアシステムに関しては人が大事なものだと思っていますが、今後、人口減少が避けられない中で、人に頼るといのは不可能な時代に入ってきていると思ったときに、先ほど専門委員もおっしゃったように、先端技術をどういうふうに活用していくかという違う視点での取組をもっと積極的にしていかなければいけないのだろうと思っています。

先日、中小企業を相手にしている県外のシンクタンクの方の方が、話を聞きたいということで私のところに突然来られました。子どもの貧困のネットワークを組んでいるところで全く面識のない方でしたが、いろいろやりとりをする中で、企業の方たちからすると福祉の業界は全くわからない、福祉からすると企業はわからない。でも、コラボをしていくことでおもしろいアイデアが出るのだなと思ったところでした。今、福祉問題だったり社会問題をその業界だけでやるのは限界だと考えていまして、県や市のほうでも協働事業とかありますが、ただ単に事業をどう協働していくかというよりも、企業同士、企業と福祉業界でいかに一緒に手を取り合っって県をつくっていくかということが求められていくのかなと思いました。

○会長 ありがとうございました。いろいろな規制などがある中で大変御苦勞をしておられるかと思っています。

それでは、委員、お願いします。

○委員 私も主にSDGsの話になると思いますが、まず、人口減少が大きな課題としてある中で、これから大切になってくるのが、一人ひとりが複眼的な視点を持つこと、そしてまた、一人ではなく、隣の人だとか、今の委員のお話のように違う分野の人や違う考えの人と協働して行って、力を2倍にも3倍にもしていくことが求められる時代だと。その上では、SDGsの精神である「誰も置き去りにしない」ということを心がけながら進んでいく社会が求められるのかなと思います。

そこで有効なのがSDGsだと思いますが、これは物事を複眼的に考えられる物差しでもあるし、ローカルとグローバルの課題を同時に解決していこうというまなざしをくれるものでありますし、また、行政だけではなくて企業とか一人ひとりの個人も一緒になって物事を進める、取り組めるものである。しかも横串を刺しながら進めていけるものなので、今回、追加という表現がありましたけれども、第1章の中に追加されたことで安心いたしました。本日、同時にわかったことが、私が所属している人づくり部会でも強く押し出すべきという話があったのですが、ほかの部会でもそういった声があったということを知って、これはいろいろな県民が考えていることだったということがこの会議でわかって、すごく心強く思いました。

一つ質問としてさせていただきたいのは、「本県の施策にも取り組んでいくことが重要ですよ」と書いてあるので、今の段階でどんなことを考えていらっしゃるか、もしあれば後で教えてください。

そして、取組以外でも御提案したいのが、物事を進めるだけではなくて検証することが大事です。その検証にSDGsを取り入れることも有効ではないかと思います。一つ一つの事業の効果だけを見ていってしまうと、ほかの見方で見たときに、何かが後退していたり、悪い影響を与えてしまうことがあります。例えば、経済活性化だったり産業振興のことを進めようとするときに、SDGsのいろいろな視点で見ると、例えばその事業が環境に影響はないか、その事業で働く人たちが暮らしに困らない所得を得ているか、その事業ではジェンダー平等が実現しているかというふうに、横串を刺していろいろなテーマで考えていける。そうすると、おのずと宮崎全体がバランスよくよい方向に向かっていくということがあると思いますので、事業を展開していくときにもですが、検証していくときにもこのSDGsはとても有効だと思います。

2点目が、その上での話ですが、人づくり部会で、先ほど部会長がおっしゃってくれま

した「子どもに優しい県」という言葉がありました。やはり未来というのは子どもたちそのものなので、子どもたちが今幸せで、そして、これからも希望を持てる社会にしていくことが重要というのは皆さんも同じだと思いますが、そういった目標があれば、それこそいろいろな分野の人、さまざまな考えの人たちが一緒に活動していけると思います。

私、1月5日付の新聞で、ある方にSDGsのことを質問しました。そこでおっしゃっていたのが、個別の問題を縦割りの発想で考えると限界があります。その点、子どもや若者のためなら、地域はこうありたいねという思いをベースにできるから、皆で何かをやろうという機運が高まります。SDGsを活用すれば、未来を創造しながらさまざまな分野の人が集まって対話ができる。そのこと自体が地域を活性化させます。こういった点から、SDGsは地域の希望とも言われ、地域ごとに多様な取組ができると思いますというふうにおっしゃっていましたが、そのとおりだと思います。

これから、この長期ビジョンを使って物事を進めていくときに、子どもたちの未来に希望が持てる方向に行っているのだろうかということの一つの指標にするのが大事なかなということと、もう一つが、せっかくできるこのビジョンが県民に届くものになってほしいと思います。そういう方向性で宮崎は進んでいくんだということをしっかり知った上で生活をする、そういうものが人ごとではなくて自分ごと化として生活の中にも取り込めていけると思うので、これをどう発信していくかということにも気を配っていく必要があるし、また、いろいろな教育の中であっても、地域活動の中であってもいいと思いますが、SDGsであるとか県の長期ビジョンの目指す方向、そういったことを子どもたちにも考えてもらう機会をつくっていくと、これからの宮崎に生きてくるのではないかと思います。

○会長 どうもありがとうございました。幅広くまとめて御発言いただきました。

では、委員、お願いします。

○委員 私は、37ページの県民意識の中の、「現在住んでいる地域については、8割近くの方が住み続けたいと考えていますが」というところで、「住み続けたい」が80.9%という数字に大変驚いております。今年で30年連続になります。私どもが春季生活闘争の時期に、宮崎労働局や県内26市町村、経営団体のほうにも御要請に行くときにずっと言われていることが、この地域で働く場所があって、学校があって、病院があったら住み続けたい。この3つのリクエストが大変多いということを考えますと、「住み続けたい」というのは、この意識調査に参画した県民の方々が、今住んでいるところに一定の満足度があるのかなというふうに再認識したところでした。

また、私は働く立場ということでいろいろな部会に参画させていただいていますが、36ページで、本県は、有業率が58.3%と全国27位と。「産業面において、女性や高齢者は重要な働き手となっていることから、今後も女性が働きやすい環境や、高齢者の就業環境づくりに取り組んでいく必要があります」とまとめていただいておりますが、子どもたちを家族や地域で育てることも重要ですし、働くということが普通なんだと、そういった環境づくりがこれからは大事ではないかと思っております。

人口減少、少子高齢社会はこれからかなり続くのではないかと思いますし、人手不足も突発的ではなくてずっと続いていくと思っております。先ほど検証ということもありましたが、宮崎も口蹄疫からの復興や、台風24号・25号を乗り越えながら今進んでいると思います。私は、宮崎の最大の魅力は、食べ物や気候、自然ではないかと思っています。その中で、知事もおっしゃっているオール宮崎、そういったことでのチーム宮崎。私自身も働くことは人生だと思っていますので、宮崎で働き、生活し、そして学び、それぞれの方々が、私は一番は心だと思っていますが、観光客の方が来たら真心を持って接していく。そして自らも自立していくというか、自分自身で歩むということが大事だと思っております。

○会長 どうもありがとうございました。

専門委員、何かつけ加えることがあればお願いします。

○専門委員 私は、人づくり部会にいますし、自分の仕事が教員養成ですのでそう思うのですが、やはり人財育成が非常に大事だということを改めて思っています。どの分野でも人づくりは大事ですが、人財育成する人をどうやってさらに育成するのか、サポートするのか、そういったあたりが気になります。我々も、将来、学校の先生になって子どもたちを育てようという人たちをどうやって育てるのかということ考えていますが、そういう人財育成をしてくれる人をどう育てるか、サポートするかというあたりをさらにやっていく必要があるのではないかと思います。

もう一つは、部会の中でも出た意見ですが、情報発信や魅力発信にもう一つ工夫が要るのではないかと。当事者になって初めてそういう行政サービスを知ったとか支援があることがあったということがあります。宮崎に住んで初めて宮崎のよいところがわかるということがありますが、UIJターンという問題になってくると、宮崎に来たことのない人に宮崎の魅力をいかに伝えるか、そういうことも大事になってきますので、今までもいろいろ工夫や努力をされていると思いますが、情報発信や魅力発信を今後ますます強めてい

かなければならないと思いました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員 長時間かけてこの長期ビジョンの素案ができて、よくまとまっているなど実感します。本当にお疲れさまです。ただ、一方で、「長期ビジョン」の「ビジョン」とは何なんだと思ったときに、未来像とか展望とかそういうイメージが強くて、本当にこれが最終目標なのかなと。逃げでビジョンとなっているのではないかと思ったりします。ここまで議論をしたということは、それなりの覚悟を持ってビジョンの実現を図ることがすごく大事なことだと思います。平成23年（2011年）にできて、一回改定して、今回また2030年までということですが、これを見ると知事の公約と一緒に4年間となっています。ただ、これは一方で、県としての総合計画でこれだけを議論して、こういう形が実現すればゆたかさが獲得できますよという絵柄だと思います。その辺のところの覚悟をもう一回確認すべきだということが1点。

それから、県の総合計画の中での長期ビジョンですので、各市町村はどこも総合計画をつくられているわけですが、それとちゃんとリンクしているかどうかということが気になります。そうすると、県としてのリーダーシップがどこまで大事か、その辺のところを我々としては思った中でこれは出すべきだと思っています。

人口減というのは知事も含めてずっと言われています。その中でも、今までの発想とは違った形、人口減を前提にしたあるいは将来像のいろいろな部分を前提にした絵柄を描かないといけないと書いてあります。例えば16ページ、ケース2のときに、99.5万人、経済活動の生産性が10%向上する場合とありますが、人口減のときに10%行くのか行かないのか。人手不足とかいろいろありながらその辺のところも厳しいという一方で、今までの発想の中で前提条件を置いている。本当にこれで達成できるのかどうかということがあります。

それと、最終的にはこれを受けてアクションプランが大事になるわけで、各自治体とも連携を図る中で、予算づけがどういう形でこの5戦略の中でされていくのか。もう一回この辺はしっかりと受けとめた中で発表していただけるとありがたいなと思います。

○会長 どうもありがとうございました。委員の皆様からそれぞれ御発言をいただきました。本当にありがとうございました。

今日は、副知事にも御出席いただいておりますので、それぞれ御意見をいただきたいと

思います。では、副知事からお願いいたします。

○副知事 では、私から一言。

計画自体の中では5つの戦略がありますけれども、人口減少にどう対応していくのかということがしばらくの間、非常に大きな課題になると思います。人口という物差しを当てるわけですが、その本質は、やはりそこに住んでいる人が誇りと魅力を持って、しかもしっかりと生活していける地域をいかにつくっていくか、こういうことだと思います。そういう意味では、市町村との連携は非常に大事だと私も思います。これが縦串の話でしょうか。もう一つは、人が減っていくときだからこそ、人にフォーカスしていくことが非常に大事だと思います。産業人財、福祉人財、あらゆる分野での人財の育成が今一番大事なことでろうと思いますが、ここでは産学金労官の連携というものが非常に大切だと思いますし、それらを総合したような仕組みづくりが大事かなという気がします。これが横串の問題ということになるのでしょうか。

もう一つ、産業面について意見を言わせてもらおうと、私は、循環ということが非常に大事な時代に来ていると思います。持続可能性の問題もありましたけれども、循環をいかに促進して地域で付加価値をつけていくのか。言い方を変えれば、地域経済を地域に取り戻す、そういう覚悟が今、我々に問われているのではないかと思います。フードビジネスの取組はその先行事例と捉えたほうがよいのではないかと思ったりもしているところです。

それから、産業についてももう一つ言わせてもらえば、私は、新しい時代の扉を開くのは常に新しい技術であると思います。そういう意味では、いかに産業に新しい技術を取り入れて産業を高度化していくのか、このことに我々は傾注すべきではないか、そんな気がしております。

それと、最後に委員から言われましたが、いかに実践するのかという話。この戦略のもとに具体的な行動目標をどう立てて実践していくのかということの重要性について、改めて考えさせられたということでもあります。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、副知事、お願いします。

○副知事 委員の皆様には大変貴重な御意見、御指摘をいただきまして、ありがとうございます。

今、それぞれの委員の先生方の御意見、御指摘を伺いましたが、改めて、私の担当分野

におきましても、それぞれが大変大事な御指摘、ポイントを含んだ御意見であるということをご改め感じていただくところがございます。

これからの宮崎の発展というものを考えましたときに、それぞれ部会の報告の中にもございましたけれども、若者にどうやって宮崎の魅力を語っていけるのか、また語られるような魅力をつくっていけるのかということは大変大事だと思いますし、また、防災・減災対策も待たないででございます。むしろ本県は加速していかなくてはならないと思っております。また、交通のネットワーク、これは道路だけではなく、地域の公共交通、免許返納者のお話もございましたが、そういったことも含めて、足をどう確保していくのか、これも大変大事でございます。また、医師・看護師、介護の方のお話も出ましたけれども、人財の確保、外国人の検討も必要ではないかということ、全くそのとおりだと私も思っております。教育の問題等、多々ございました。

全体的なお話になってしまいますが、私は、宮崎県というのはまだまだ潜在力があると感じています。伸び代がまだあるのではないかと感じています。今、私、特に頑張っており組んでおりますが、高速道路をつなげるということも、ある意味、宮崎が持っている潜在力をほかの地域と同じように発揮できるようにするための一つの手段、施策だと思っております。会長のほうから、情報発信については、もっとできるどころ、工夫できるところがまだあるのではないかと。宮崎の持っている力をうまく引き出せる工夫というものがあると思います。横串のお話、縦串のお話、複眼的な物の見方が大事だということもございましたが、これは、もうちょっと宮崎をうまく世の中に対してPRして成長していけるものがあるということの裏返しかなと思っております。

行政に当てはめると、縦軸、横軸もそうですし、いろいろ御議論を伺っていて感じましたのは、やはりチャレンジしていくことが大事かなと感じました。今まさに長期ビジョンを議論しているときです。これまでと同じようなことをこれまでと同じようにやっていただけでは、今、日本全体は右肩上がりではありませんし、地域間競争の時代で、どうしても埋没、じり貧になっていってしまう。そこを攻めと守りの部分、行政もしっかりとチャレンジすべきところは自信と覚悟を持ってチャレンジしていくこと。また、そのときに皆様方から御意見、御指導を賜ればと思っております。

それから、委員のほうから実現が大事だということもいただきました。今までいただいた御意見、御指摘もそうですし、それを踏まえまして、これから御議論いただくアクションプランの検討を通じて、しっかりとこのビジョンを施策に落とし込んで、そしてしっか

り実現していく、取り組んでいくことが大事だと思いますので、また引き続きの御指導をよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、長期ビジョンの今後の取り扱いでございますが、皆様からいただいた御意見を踏まえて、近々答申するということが予定されております。それに向けて原案を整理しまして、文言の修正等を行っていきたいと思います。事務局と私のほうで作業を進めさせていただきたいと思いますが、この件につきましては、私のほうに御一任いただけますでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)

○会長 そのように対応させていただきたいと思います。

予定では、1月29日に私のほうから知事のほうに答申することになっております。それに向けて作業を進めさせていただきます。

それでは、続きまして、アクションプランについてであります。事務局から説明をお願いいたします。

○総合政策課長 それでは、説明させていただきます。

資料のほうは、「資料3」とインデックスが貼ってあるところでございます。

今回、御説明いたしました長期ビジョンの実現に向けまして、来年度からの4年間の取組を取りまとめた実行計画としてのアクションプランを、今年の6月議会に向けて整理していくことにしております。現在、既に関係部局との協議は進めているところでございます。ただ、中身を十分吟味するまでに至っておりませんので、具体的な内容を御説明する段階ではまだございませんけれども、3月に専門部会を開催して、そこでアクションプランの御意見を賜りたいと考えておりますので、本日は御参考までに、現在内部で整理しておりますアクションプランの構成、柱立て、こういったものを簡単に御説明させていただきます。

まず、資料3-1でございます。こちらは、現行アクションプランの構成と新しくつくりかえているアクションプランの案の構成の比較になっております。構成そのものは長期ビジョンと同様に、そう大きく変えるというつもりはございません。現行アクションプランの構成を踏襲しながら、大きな変更はございませんけれども、長期ビジョンの長期戦略が8本あったのを5本にしたということでございますので、長期ビジョンの長期戦略に

対応する形でアクションプランも整理したいと考えております。アクションプランの構成は、長期戦略の戦略1から戦略5までに対応する形で、「人口問題対応プログラム」「産業成長・経済活性化プログラム」「観光・スポーツ・文化振興プログラム」「生涯健康・活躍社会プログラム」「危機管理強化プログラム」という5本柱にして、それぞれ整理してまいりたいと考えております。

次の資料3-2を御覧ください。それぞれのプログラムの今後4年間で取り組んでいく内容を今から整理してまいりますけれども、新アクションプランの基本的な構成、柱立てを一覧化しております。これから御意見を踏まえながらいろいろ修正していくところはあると思いますけれども、基本的には、各プログラムごとに5本から3本重点項目を設けて、そこに細かい施策をさらにぶら下げまして、具体的な施策に仕上げたいと考えております。現段階では肉づけまで御説明できませんけれども、3月の専門部会ではしっかりと御説明するように詰めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

○会長 ありがとうございます。ただいま、アクションプランの資料についての御説明がありました。今後のスケジュールについてもよろしいですか。

○事務局 今後のスケジュールにつきまして、私のほうから説明をさせていただきます。一連の資料の一番最後に1枚紙で「今後のスケジュールについて」という紙を添付してございますので、こちらを御覧いただけますでしょうか。

先ほど会長や事務局のほうから御説明をいたしましたとおり、本日16日の合同会議をもちまして一定の素案がまとまったということで、1月29日に審議会のほうから知事に対して長期ビジョンの答申を行い、それを2月議会に上程していくという流れになります。

これとあわせまして、先ほども説明がございましたアクションプランを整理してまいります。3月19日にはくらしづくり、22日には産業づくり、25日には人づくりのそれぞれの専門部会に分かれまして、アクションプランの固まった案を御議論いただく場を設けたいと考えておりますので、御出席のほう、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

○会長 ありがとうございます。ただいまのスケジュールの説明についてはいかがでしょうか。何か御質問等ございますか。

それでは、御協力のほどをよろしく願いいたします。

以上で、本日予定いたしました日程は全て終了いたしました。審議会委員、各専門部会

の専門委員の皆様にも熱心な御審議いただきましたことに心から御礼を申し上げます。

本日の議論を踏まえまして長期ビジョンの案を取りまとめたいと思っております。これまでの皆様の御協力に会長の立場としまして心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

また、引き続き、アクションプランにつきましても、皆様の御協力を賜りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、最後に、知事のほうから一言お願いしたいと思っております。

○知事 御礼を申し上げます。本日の御議論、また、これまでに至る御議論を踏まえて、長期ビジョンの改定案を答申いただけるその方向性が定まったということでもあります。本日もさまざまな角度で、大所高所からの将来を見据えた御議論をいただいたところでもあります。そして、最後にもいただきましたが、それをいかに具体的に実行していくのか、大変重要なアクションプラン、その次の議論になってくるところでもあります。

これは、私が選挙のときに掲げた公約、政策提案という表現で掲げておりましたが、それも踏まえながら、本日の御議論、そして、この長期ビジョンの内容等も踏まえたより具体的な施策ということになるわけでもあります。選挙後もいろいろなところから御指摘をいただきまして、この21日から3期目になるわけではありますが、1期目、2期目、その成果をいかにその先の成果に結びつけていくかということ、そして、今、オール宮崎という御指摘もいただきましたが、しっかりと宮崎がまとまっているいろいろな施策に打ち込むことができるこの体制をより生かしていくためにどのような対応を図っていくのか。これまでの単なる延長線上ではいけないのではないか、何か新しいものはないのかというような御指摘をいただいております。

この4年間、長いようで短い、さまざまな大きなプロジェクトも進行している中で、本日いただいた長期ビジョンの将来のビジョンというものを踏まえて、ぐっと心をつかむような施策を県民の皆さんに訴えていくことができるのか。しっかりと皆さんの御意見をいただきながら、また、幅広くいろいろな知恵を出しながら、より実現性のある実行の段階のプランということで議論を深めてまいりたいと思っております。

御理解と御協力をお願い申し上げまして、御礼の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。それでは、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

○事務局 皆様、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議の全てを終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

午後 2 時 53 分閉会